

南相馬市の現状と

浜通りの復興に向けた提言



相馬野馬追祭



All hearts united
for the rebirth of Minamisoma!
2011.03.11

平成26年6月9日



南相馬市長 桜井 勝延



南相馬ソーラー・アグリパーク



サービスエリア利活用拠点



災害公営住宅

イノベーション・コースト構想の検討に当たって



地震による建物の倒壊



津波により小学校に打ち寄せられた漁船



作付制限により雑草が茂る水田

**地震、津波、原発事故による
世界的な災害から、
世界的な復興を目指して**



ロボット技術の育成



農地の利用の制限緩和

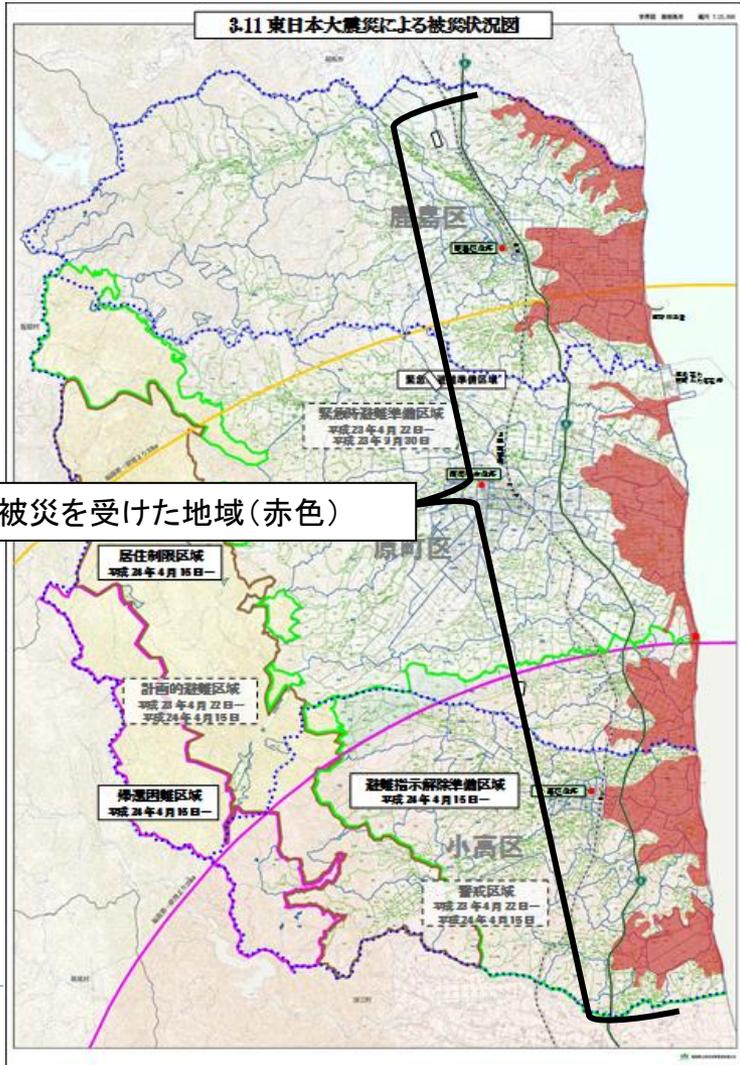


燃料資源作物の導入

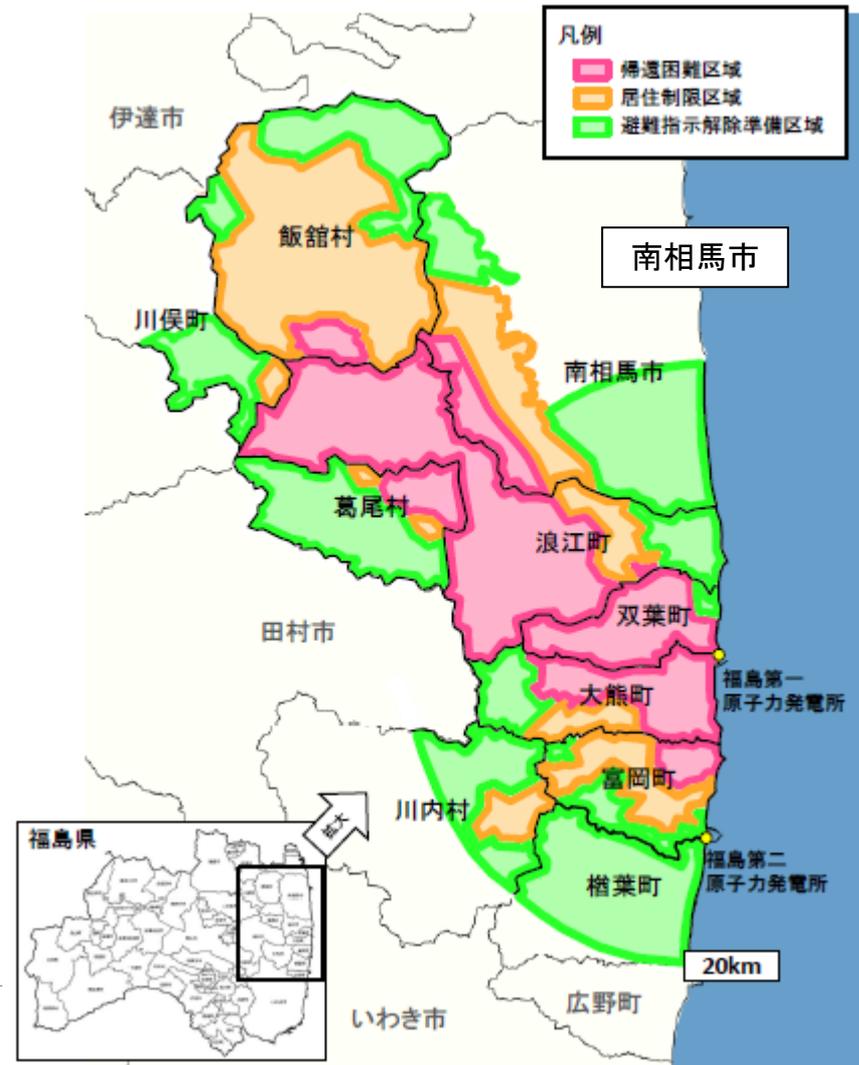
南相馬市の津波被災状況と区域見直し

- ・市内全体で40.8平方キロメートルに及ぶ広大な地域が津波により被災。
- ・平成24年4月16日に区域見直しを実施。

● 津波被災の状況（平成23年4月8日現在）



● 区域の見直し（H26年4月現在）

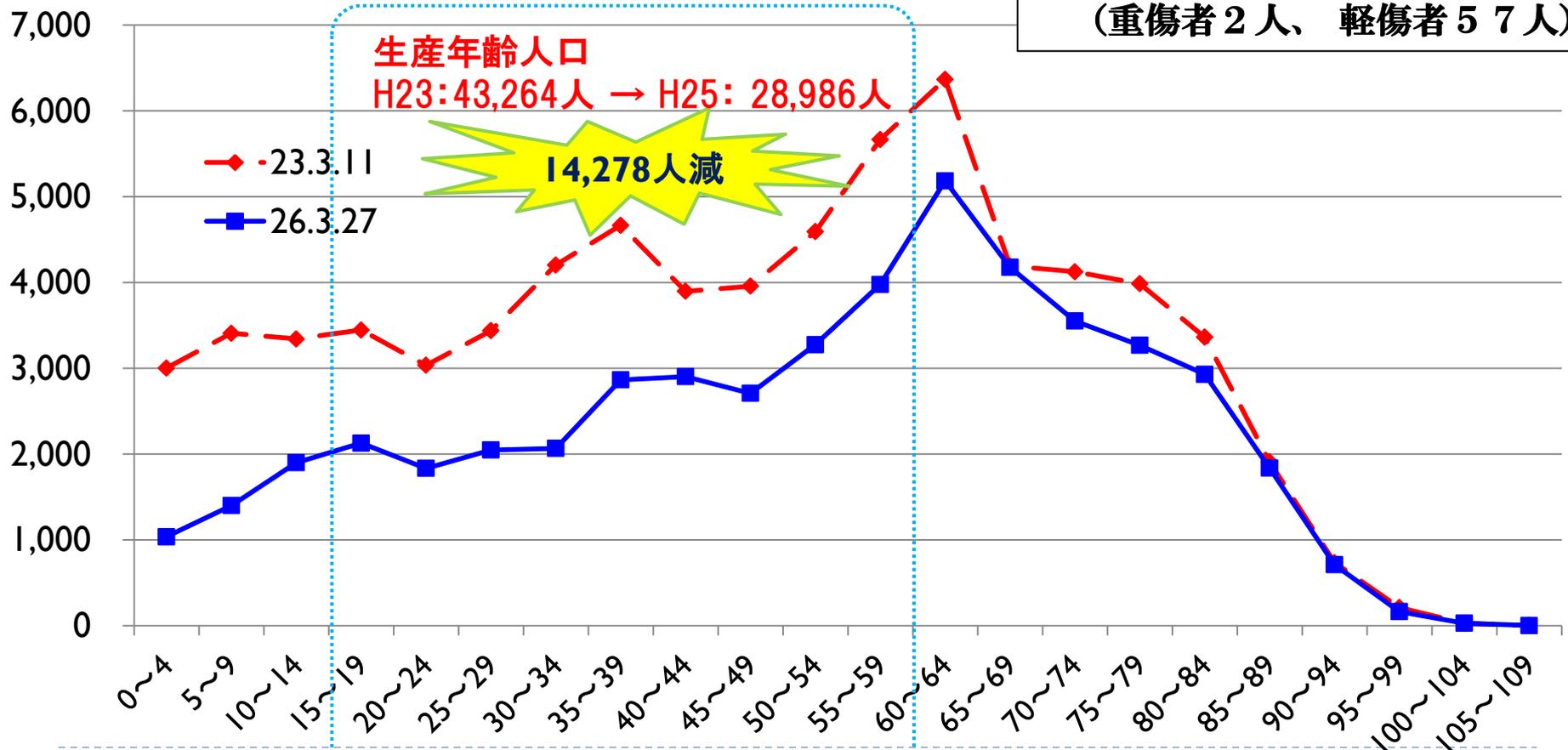


南相馬市の現状：生産年齢人口の減少

- ・年少児を持つ若い世代を中心に避難しており、急速な高齢化が進行(25.9%から33.3%へ)。
- ・市外避難者を加えた流出人口の約8割が50代以下。

【人的被害】平成26年5月28日現在

- ・死亡 1,093人
(うち震災関連死 457人)
- ・行方不明 0人
- ・負傷者 59人
(重傷者2人、軽傷者57人)



南相馬市の課題とこれまでの取組

- ①工業生産の回復のため、
高度な技術力を有する地元の機械金属加工産業と、
原発事故対応に向けたロボット産業の需要を結びつける必要。



- ②原発事故により大きな被害を受けた農業において、
農業者が安全・安心な農産物の生産・加工・販売が
できるような環境整備が必要。



- ③広大な津波被害や放射能汚染を克服するため、
再生可能エネルギーや研究機関の誘致が必要。



南相馬市復興計画に基づき、新たな産業の創出を推進

- ①ロボット工学など新分野への企業進出を推進
②植物工場など農業分野の新たな取組を推進
③沿岸部での太陽光発電施設や研究機関を誘致

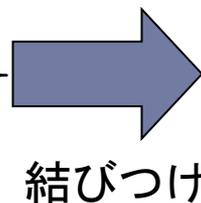
これまでの取組①：

南相馬市ロボット産業協議会の設立

地域の工業生産を回復させるため、

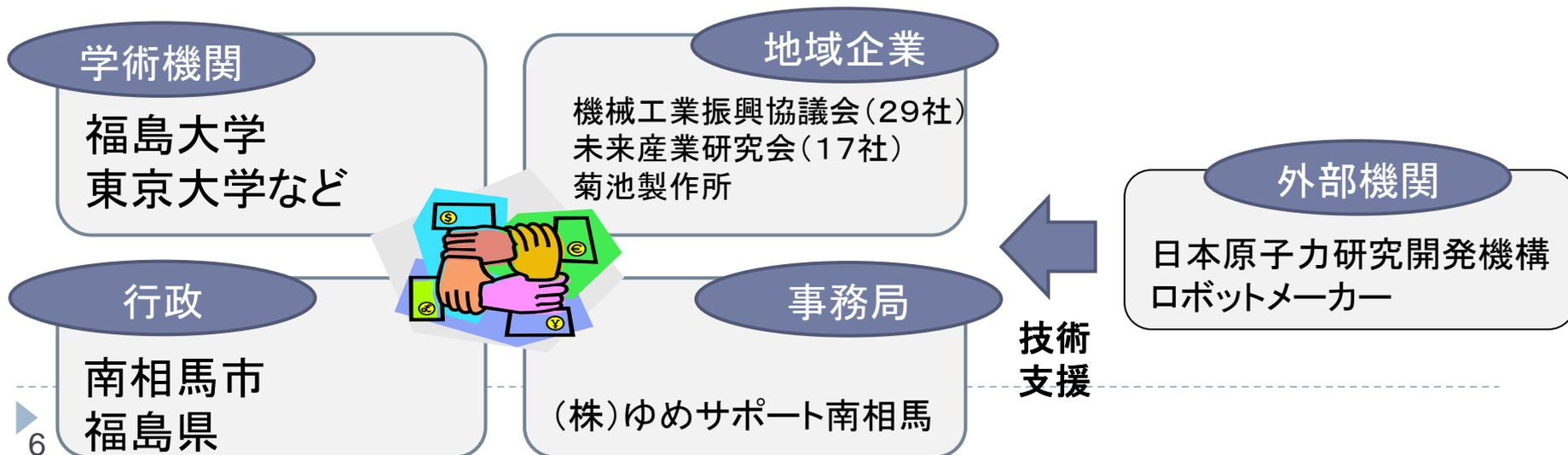
高度な技術力を有する
機械金属加工分野の地場産業

災害や原発事故に対応できる
各種ロボットの開発需要



ロボット工学産業
による産業復興

南相馬市ロボット産業協議会の設立 (23.12.21)



これまでの取組①：

産学官連携によるロボット開発の推進

取組内容	25年度	26年度以降の展開
要素技術開発	ロボット開発	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自主財源による事業継続 ➤ 開発成果物の実証 ➤ 災害対応ロボット訓練 フィールドの誘致 ➤ 病院・介護施設の設備の 充実
事業普及活動	講演会・研修会による 協議会員増加	
ビジネス化	地域企業の技術紹介 パンフレット配布	

これまでの成果

研究開発 I



小型偵察用途ロボット

研究開発 II



パワーアシストスーツ

人材育成



災害対応ロボット活用センター構想デモ
福島県立テクノアカデミー浜で開催(24.10.26)

これまでの取組②：農業分野の新たな取組

原発災害を克服した農業の再生のため、植物工場、太陽光発電施設、体験学習を組み合わせた南相馬ソーラー・アグリパークを建設（平成25年5月9日）



「自家発電のまち」を目指すため、バイオマスエネルギー利用に向けた藻類の生産施設を計画。



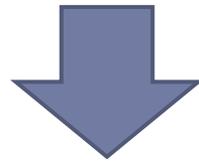
屋外解放型レースウェイ培養槽のイメージ



福島県浜通りの復興に向けた イノベーション・コースト構想への提言



- ・ 原発災害を克服して元気な浜通りを再興する。
- ・ 新たな産業への挑戦から、世界に誇る国際産業研究都市（イノベーション・コースト）の創出へ。



既存の理念にとらわれない産業創出と規制緩和が必要

- ① 災害や医療向けに最先端のロボット産業を育成
- ② 食用作物への移行期間として燃料資源作物を導入
- ③ 農地利用に対する制限緩和を導入

②燃料資源作物の導入



- 避難指示区域等では多くの農家が長期間の耕作休止や離農を検討している状況。
- このままでは、広大な面積の田畑や牧草地が荒廃してしまう恐れ。



- 放射能への不安や風評被害の恐れがなく、農家が安心して栽培できる燃料資源作物の栽培について、食用作物栽培への移行期間として導入。
- 20～30年の長期的な視点で農地を良好な状態に維持。



南相馬市では平成26年度から、資源作物(デントコーン等)の実証栽培を開始。

③農地利用に対する制限緩和の導入



- 避難指示区域等における長期間の耕作休止や離農者の増加。
- 広大な面積の農地が山林原野化する恐れ。



- 農業者の生活再建の視点に立った農地利用の制限への大胆な緩和を導入。
- バイオ資源作物を利用した発電、太陽光発電事業による収益を活用した農村環境の保全、ソーラーシェアリングの規制緩和等を実施。

南相馬市では、復興整備計画を活用し、津波被災を受けた沿岸部において、大規模太陽光発電施設の建設を計画。



イノベーション・コースト構想に期待すること

原発事故を受けた浜通りをイノベーションによって、
新たな地域に変えよう。

ロボット技術の育成

燃料資源作物の導入

農地利用の制限緩和

雇用の創出・人材の育成

インフラの整備



(参考) 南相馬市の概要

人口・・・63,804人(平成26年5月1日現在)
※71,561人(平成23年3月11日時点)
面積・・・398.5km²(約55%が山林)
産業・・・主要産業は農業、その他工業、製造業
文化・・・相馬野馬追

- 平成18年1月1日に鹿島町、原町市、小高町の合併により誕生
- いわき市と仙台市の間に位置する浜通りの中核都市

Tohoku_A3C
papersize=297mm x 420mm



福島県全図

